

京 都 大 学
高 等 教 育 研 究
第 8 号

京都大学高等教育教授システム開発センター

2002

研究ノート

「和歌山大学における公開授業」

吉田 雅章 和歌山大学経済学部 167

実践報告

「FDと学生力——岡山大学 学生・教員FD検討会の1年——」

橋本 勝 岡山大学教育学部 179

第二部 記 録

「第8回大学教育改革フォーラム」(所属等はフォーラム開催時)

大学教育評価をどうするか——評価からFDへ——

開会の辞	荒木光彦	京都大学高等教育教授システム開発センター長	189
挨拶	長尾真	京都大学総長	190
趣旨説明	溝上慎一	京都大学高等教育教授システム開発センター・講師	192
問題提起Ⅰ	館昭	大学評価・学位授与機構・教授	194
問題提起Ⅱ	安岡高志	東海大学理学部・教授	204
問題提起Ⅲ	大山泰宏	京都大学高等教育教授システム開発センター・助教授	212
討議			220
総括	田中每実	京都大学高等教育教授システム開発センター・教授	231
閉会の辞	荒木光彦	京都大学高等教育教授システム開発センター長	232

高等教育教授システム開発センター日誌(2001年9月～2002年8月) 233

高等教育教授システム開発センター業績(2001年9月～2002年8月) 238

英文概要2001-2002 246

『京都大学高等教育研究』編集規定 251

『京都大学高等教育研究』投稿規定 251

『京都大学高等教育研究』編集規定

平成14年10月31日制定

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育教授システム開発センターが発行する研究誌である。
 2. 本誌には、本センター関係教官の論考、共同研究の報告その他本センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する他、投稿論考を掲載する。但し、投稿論考については、当分の間、次項に規定する編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものに限定する。
 3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
 4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
 5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規定及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
 6. 投稿された論考の掲載および論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
 7. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。但し、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。
- (附則) 本規定は、平成15年度発行の『京都大学高等教育研究』第9号から施行する。

『京都大学高等教育研究』投稿規定

平成14年10月31日制定

(全般)

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとし、かつ、当分の間、編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものとする。この責任の範囲については、投稿の前に、編集委員会に問い合わせること。
2. 論考は研究論文、研究ノート、実践報告に区分される。投稿時にいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。
3. 論考は未発表のものに限る。但し、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告に区分される。研究論文は、学問的な手続きに基づいておこなわれた、高等教育に関する独創的・新規な研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考である。研究ノートは、高等教育研究への有益な資料となる論考である。実践報告は、高等教育研究への示唆となる、高等教育に関する実践の報告である。
5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考は原則として以下の作成要領により、ワープロソフトによって作成するものとする。
 - ・ A4判用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
 - ・ 40文字×25行の1,000字を1頁とし、20頁以内の分量とする(図表、註、参考文献を含む)。
 - ・ 論文題名の後に題名の英訳及び英文200語程度の論文要約を付すこと。
7. 論考原稿3部(うち2部はコピー可)及び原稿を編集委員会に提出する。また、別紙として、氏名(ふりがな)、所属(職名その他を含む)、連絡先(郵便番号、住所、電話番号)、希望区分(研究論文、研究ノート、実践報告のいずれか)を記入した用紙を添付する。

(用語)

8. 論考は原則として日本語を用いて作成すること。但し、日本語以外の言語による投稿については、編集委員会に相談のこと。
9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。但し、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

(註・引用文献)

11. 註及び引用文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、註のあとにまとめてアルファベット順に記載する。論文の場合は、著者、発行年、文献題目(日本語文献の場合、「」内に記載)、雑誌名(日本語文献の場合、『』内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載)、巻号、頁の順に記載する。単行本については、1冊を引用対象とする場合、著者、発行年、書名(日本語文献の場合、『』内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載)、発行所の順に記載し、一部分を引用する場合には、著者、発行年、引用部分の題目(日本語文献の場合、「」内に記載)、編者、書名(日本語文献の場合、『』内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載)、発行所、頁の順に記載する。なお、訳書の場合は、原語の著者名、原書発行年、原書名(斜体字)、原書発行所名を書き、その後()内に訳者名、訳書の発行年、訳書名(『』内に記載)、訳書の発行所名の順に記載する。(下例を参照のこと)

・論文

大山泰宏 2002「大学教育評価の課題と展望」『京都大学高等教育研究』7号, 37-56頁。

Hermans, H. J. 1970 A questionnaire measure of achievement motivation. *Journal of Applied Psychology*, 54, 353-373.

・単行本

讃岐幸治・田中每実(共編) 1995『ライフサイクルと共育』青葉図書。

McLuhan, M. & Fiore, Q. 1967 *The medium is the massage*. Jerome Agel.

溝上慎一 2002「学生の理解の枠組みをふまえた授業展開」京都大学高等教育教授システム開発センター(編)『大学授業研究の構想——過去から未来へ——』東信堂 57-86頁。

Hermans, H. J. M. 1995 From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy*. American Psychological Association. Pp. 247-272.

McLuhan, M. & Fiore, Q. 1967 *The medium is the massage*. Jerome Agel. (南博訳 1995『メディアはメッセージである』河出書房新社。)

12. 引用文献と註を区別し、註は本文中の該当個所に、上付き文字で(1)、(2)……と指示し、論考末尾にまとめて記載する。
13. 引用文献は、本文中では、著者名(出版年)、あるいは(著者名, 出版年)として表示する。同一著者の同一年の文献については、a, b, c,……をつける。
例 ・田中(1995a)が強調するように、……という調査結果も提示されている(田中, 1996)。

(その他)

14. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。但し掲載誌2部と抜き刷り50部を贈呈する。なお、抜き刷りについては、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。
15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。
原稿締切日 7月31日
16. 掲載された論考の著作権は京都大学高等教育教授システム開発センターに属する。
17. 本規定の改正は編集委員会が行う。

(付則) 本規定は、平成15年度発行の『京都大学高等教育研究』第9号から施行する。

『京都大学高等教育研究』第8号 編集委員会

藤岡完治 田中每実 松下佳代
大山泰宏 溝上慎一 ○神藤貴昭
(○は編集委員長)

平成14年11月30日 印刷

非売品

平成14年12月1日 発行

発行 京都大学高等教育教授システム開発センター
京都市左京区吉田本町 (〒606-8501)
TEL 075-753-3087
FAX 075-753-3045

印刷 (株)北斗プリント社
京都市左京区下鴨高木町38-2
TEL 075-791-6125

Kyoto University Researches in Higher Education

vol. 8

CONTENTS

I Articles

Articles of Center Staff and Research Fellows

- Toward the Integrated Clinical Theory on Menschen- bildung through Practical Research
on the University Education Tsunemi TANAKA
- Research on Teaching at University in an Era of Student Consumerism in Japan:
An Analyzing Learning Activity Kayo MATSUSHITA
- Reconsidering the Way of University Educational Reform Starting from the "Field":
Existence of Academic Community at Kyoto University and the Pressing Demands of the Times
..... Shinichi MIZOKAMI
- "Place" and "Identity" in learning support project "Psychology of College Students" ... Kazuhito OZAWA
- Student Motivation on Attend the "Learning Support Project for University Students:
The Version of University Life" Reiko MIZUMA
-

Papers

- A Quest for General Education as "Integrated Learning Experiences"
— "University Studies" at Portland State University Koichi TAKEKUMA
- Holistic Space and Environment: Proposition for University Education ... Michiyo ASSEMAT (Madoca)
Toshiko GLOVER
Yoshie KASAJIMA
- The Freshman Seminar at Kyoto Koka Women's University: "Daigaku-Kiso-Kouza" ... Tetsuya FUJITA
- Optimizing information literacy education for the first year course of the Faculty of Education (III):
Assessment by a computer literacy test Masuo KOYASU
Hajimu HAYASHI
Arata NISHIO
Motonori NAKAMURA
-

Notes

- The "Open Class" held at Wakayama University Masaaki YOSHIDA
-

Reports

- FD and Power of Students Masaru HASHIMOTO
-

II Documents

VIIIth Forum of University Reform; How Do We Develop the University Educational Evaluations?

— Beyond Evaluation to Faculty Development —

- Opening Remarks Mitsuhiro ARAKI
- Commencement Makoto NAGAO
- Keynote Speech Shinichi MIZOKAMI
- Presentation of the Problems I Akira TACHI
- Presentation of the Problems II Takashi YASUOKA
- Presentation of the Problems III Yasuhiro OYAMA
- Discussion
- Summary Tsunemi TANAKA
- Closing Remarks Mitsuhiro ARAKI
-

RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2002